

J-KIDS 大賞 2005 印西市立大森小学校のみなさん

みなさん作文は苦手ですか？

私はいまだに苦手です。この歳になってもしょっちゅう原稿がおくれて、迷惑をかけてばかりいます。小学校のころは特に感想文がきらいでした。書いているうちに、ときどき誰に書いているのか、よく分からなくなってしまうからです。

でも、私のような仕事をしていると、苦手とはいっても、書いて説明をしなければならないことが良くあります。書く経験を何度もしているうちに、書くと言うことはつまり伝えること、人に読んでもらうことだ、という当たり前のようなことが、最近よく分かってきたような気がします。

今は学校でホームページを作るような時代ですが、私が小学生の頃は新聞クラブに入っていました。手書きではなく、印刷された新聞が出来上がると、ちょっと偉くなったような気がしたのです。

印刷された自分の新聞は、たくさんの人に読んで欲しいと思うのですが、学校の中はともかく、街では配る方法がありません。そこで試しに近所で聞いてみると、「新聞はタダじゃない、売り物なんだよ。君は、大人がちゃんと買って読んでくれるような新聞が作れるかな？大人になれば、きっと本物の新聞を作ることができるよ」と言われました。

なるほど、たしかに新聞では、自分の学校の事や近所のことは、けっして大きな記事になりません。新聞では、より多くの人に関心を持つことが先に記事として選ばれるからです。私は、「自分が書いた身の回りの出来事は、世の中の人には喜んでもらえないのかな」と、そのとき少し寂しい気持ちがしました。

人々はなぜ新聞を読むのでしょうか。いろいろ知りたいからですね。でも、世の中大きな事件や出来事だけで、人々の知りたい気持ちは満たされるものでしょうか？

いえ、けっして大きな事件や出来事だけではないのです。身の回りの当たり前の事や、自分の思い出につながっている事も、実は、人々の知りたい気持ちの中ではとても大切なものです。

学校は、自分の身の回りや思い出につながる事柄のひとつです。

私は北海道の港町で 18 になるまで過ごしました。きっと今ごろは雪が降り始めて、子どもたちは毛糸の帽子に手袋をして学校に通っているでしょう。でも、大人になってしまうと、たとえ懐かしい母校であっても、もう学校の様子を簡単に知ることはできないのです。

私に限りませんが、学校の事をとて知りたい人々、学校の事をいつも気にしている人々がいます。自分の思い出とつながっている学校であったり、同じぐらいの歳の子供がいたり、何か手伝えることはないかと思っていたり、その理由は様々です。

ふだん学校へ通っているときは気付かないけれど、たくさんの人々の気持ちが、ひとつひとつ学校とつながっています。だから、学校で良いことがあると自分の事のようにうれしいし、悲しい出来事があると自分も心痛めてしまいます。ふだんは見えないけれど、実は学校は、先生方や、みなさんや、街の人々や、たくさんの人々の大切な思いに支えられているのです。

では、学校のことをいつも気にかけている人々は、どのような事が知りたいのでしょうか？それは行事や式といった特別なことばかりではなく、普段の学校のこと、みなさんが考えたことが知りたいのです。学校で起こっている毎日の事が分かると「ああ、学校はいつもの通りに、

元気にやっているのだな」と安心できるのです。

ただ、つい数年前までは、この「知りたい」と思う気持ちをすぐにはかなえてくれる方法はありませんでした。今は、インターネットのホームページを使えば、誰でも知りたいことがすぐ調べられます。いいかえれば、知りたい人と伝えたい人がすぐにつながるのです。ホームページを開けば、たとえ遠く離れても、自分の小学校の様子をいつでも知ることができます。これは学校の事を詳しく知りたいと願っている人々にとっては、なによりの贈り物です。

J-KIDS 大賞は、優れた小学校のホームページを選ぶコンテストです。大森小学校は日本一の**大賞**に選ばれました。このコンテストにはたくさんの人々が関わりますが、みなさんの伝えている学校の毎日が、ホームページを通じていろいろな人に伝わり、「大森小学校は良い学校だな」、「行ってみたいな」、「自分の子供を通わせてみたいな」という、たくさんの人々の強い気持ちが、賞という形になりました。

さて、では学校の毎日は、どうしたら伝えられるでしょう。作文が苦手でも大丈夫でしょうか？大切なのは、人によって、それぞれ見え方や上手な伝え方は違うということです。私の場合、新聞クラブのくせに作文は苦手でしたが、絵は得意でした。ポスターやデザインなら誰にも負けないぞ、とその頃いろいろ工夫をしたことが、今の仕事にもどこかで役に立っているような気がします。

作文がダメなら、絵でも、写真でもいいのです。みなさんひとりひとりが、自分の得意なやり方を工夫して、学校の事を知らせて欲しいと思います。いろいろな人から様々な事柄が伝えられると、読んでいる人は、きっと毎日学校に居合わせているような気持ちになるでしょう。

今日のお話を簡単にまとめましょう。

書くということは伝えることです。作文や記事の書き方を覚えるということは、つまり、伝え方を工夫するということです。

新聞には、学校のことや地域のことはあまり載らないけれど、学校のことを自分のことのように大切にしている人々がいます。みなさんをはじめとして、学校は、たくさんの人々の「学校を大切にしたい」思いに支えられています。

学校のことを気にかけている人は、特別な事ではない、学校の毎日が知りたいと願っています。そのためには、みなさんひとりひとりが、得意な伝え方を工夫して、学校の毎日を伝えることが、なにより一番よい方法なのです。

最後になりましたが、ホームページを通じて、毎日みなさんの様子を知ることができて、私はたいへんうれしく思います。これからのみなさんの活躍に期待しています。

2005年12月8日
J-KIDS 大賞実行委員 豊福晋平